

域内交通の確立を

町長 公共交通利用・利便性を含めて取り組む必要がある

木村

域内の交通手段が自動車に頼っている本町にとって、高齢者の足をどのように守るかは、この町に長く住むためには重要な課題となっている。

③ローワーヒラフ外郭道の道路管理者としての見解は。
④シャトルバスやパーク・アンド・ライドなど域内交通の見解は。

町長

①ひらふ地区駐車場の利用は1日平均約500台。

また、観光客数の増加とともに車両が増え、特にひらふ坂交差点の渋滞が深刻化している。訪れる観光客と地域の方の安全を守り、地域内移動の利便性向上を図ることは、俱知安町発展にとって重要な要素と考える。

①ひらふ地区区空間調査による現状の認識は。
②ひらふ坂交差点の拡幅整備要望の進捗状況は。

決まっていないが、歩道の設置、勾配の緩和、左折レーンの整備等について、調査、検討を行っていると説明を受けた。

どで実施例や、庁内で検討した経緯もあるので、実施の可能性も含めて、再度煮詰めたい。

当初は外国人観光客が車を利用することを想定していなかったと思うが、

木村

今、観光客のニーズは、ただスキー場で滑るだけではない。スキー以外のことを楽しむには、交通手段が少ないので結果的に

できるだけ早く近隣地域と連携し、俱知安町全域域内交通の確立が求められる。

町長

交通体系については、俱知安市街からスキー場エリアにどう通勤用のバスを検討し、しっかりと考えていかなければならない。

またユニテッドシャトルは周知徹底をし、最近スキー場エリアから市街地に来る方が少ないということを聞くので、公共交通の利用、利便性含めて、しっかり取り組んでいく必要がある。

その他「公共施設マネジメントについて」を質問しました。



木村 聖子 議員

昨年実施した交通量調査では、道道343号線の16時間の交通量の平均は約6000〜7000台、ピーク時には約8000台であった。

②今年2月に小樽建設管理部より、具体的整備が



冬季のひらふ地区バス停

一般質問 木村聖子